

県立中学校に関するアンケート調査

調査結果 <概要>

高知県教育委員会

平成16年1月

調査の目的及び調査内容

1 調査の目的

県立中学校が開校されて2年目を迎え、県立中学校の取組の内容や入試制度について一定周知できた。平成16年度には全学年が揃うことから、これまでの県立中学校の取組の成果と課題について検証するため、以下の観点により調査を実施する。

- ・ 県立中学校への志願傾向を把握する。
- ・ 広報活動の在り方について検証する。
- ・ 県立中学校に対する期待を把握する。
- ・ 入学者選抜方法についての意見を把握する。

2 調査対象

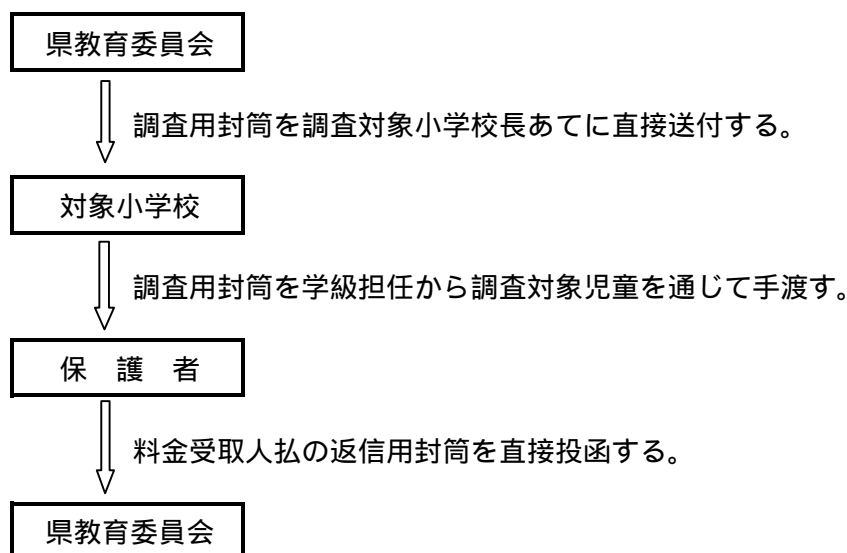
対象校

- ・ 併設中学校の設置市（安芸市・高知市・中村市）にある全公立小学校（62校）
- ・ 周辺市町村で過去入学希望者の多かった小学校（15校）

対象者

- ・ 小学5年生の保護者（対象者総数：2,141名）
- ・ 小学6年生の保護者（対象者総数：2,078名）

3 調査方法



4 調査実施状況

調査実施期間 平成15年11月26日～12月12日

調査票回収数 1,441票（回収率：34.2%）

調査結果の分析

1 広報活動の在り方について

あなたやお子さんは、県立中学校についての情報をどのように得られましたか。得られた方法のすべてに 印を付けてください。(複数回答可)

表1 学年別県立中学校情報収集方法 (単位：%)

	学校説明会 や体験入学	県の広報誌 及びホーム ページ	今回の資料	新聞などマ ス・メディ ア	小学校の教 職員	知人	その他
5年生	16.2	16.2	37.8	58.8	7.6	35.6	7.2
6年生	33.4	18.3	33.8	51.5	7.1	34.5	6.6
全 体	24.5	17.2	35.9	55.2	7.3	35.1	6.9

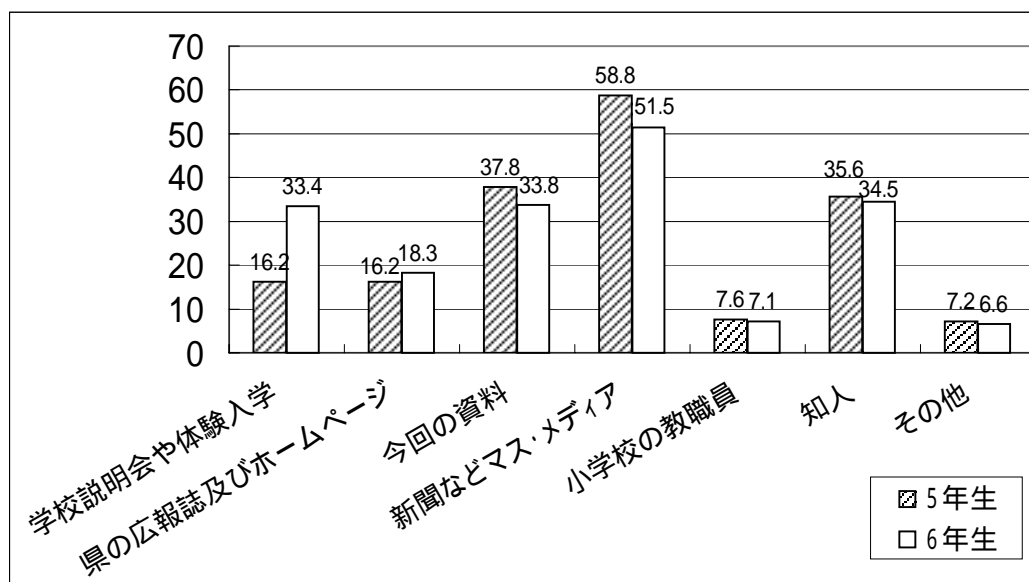


図1 県立中学校の情報収集方法についての学年別比較

県立中学校についての情報は、「新聞などマス・メディア」によって得た者が約55%と多く、この傾向は、小学5年生の方が6年生よりも強い。続いて多いのは、「今回の資料」で得た者が約36%、「知人」から得た者が約35%となっている。

小学校5年生と6年生との間での最も大きな相違点は、「学校説明会や体験入学」によって学校から直接情報を得た6年生の割合が5年生の割合の約2倍である点である。

また、「今回の資料」でのみ情報を得たと考えられる(これまで情報がなかった)者は約8%であり、県立中学校の情報提供が十分ではなかったといえる。

2 県立中学校への志願傾向について

あなたやお子さんは、県立中学校への入学を希望していますか。現時点でのお考えに最も近いものに 印を付けてください。

表2 学年別県立中学校への入学志願傾向 (単位：%)

	希望している	希望していない	どちらともいえない
5年生	20.8	38.9	39.9
6年生	25.5	54.0	20.1
全体	23.1	46.2	30.3

(ただし、無回答0.4%)

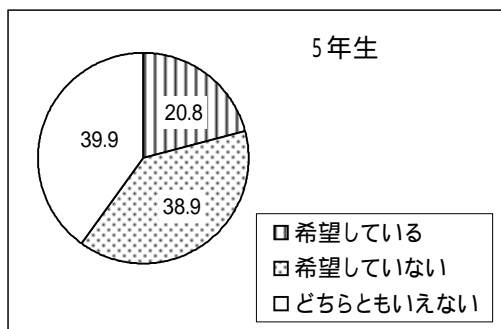


図2 県立中学校への入学志願傾向(5年生)

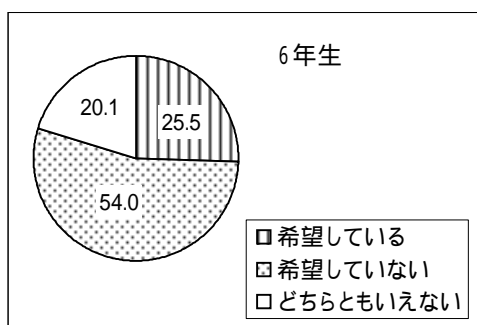


図3 県立中学校への入学志願傾向(6年生)

県立中学校への入学を「希望している」5年生は約21%、6年生は約26%であるのに対し、「希望していない」5年生は約39%、6年生は約54%である。

また、「どちらともいえない」と答えた者は、5年生の段階では約40%であるのに対し、6年生の段階では約20%となっている。

表3 入学志願傾向別の県立中学校情報収集方法

(単位：%)

	学校説明会 や体験入学	県の広報誌 及びホーム ページ	今回の資料	新聞などマ ス・メディ ア	小学校の教 職員	知人	その他
希望している	10.9	4.0	6.2	9.4	1.3	9.5	1.9
希望していない	7.8	8.7	17.3	28.7	4.3	14.5	3.4
どちらともいえない	5.7	4.3	12.2	16.8	1.8	11.0	1.7

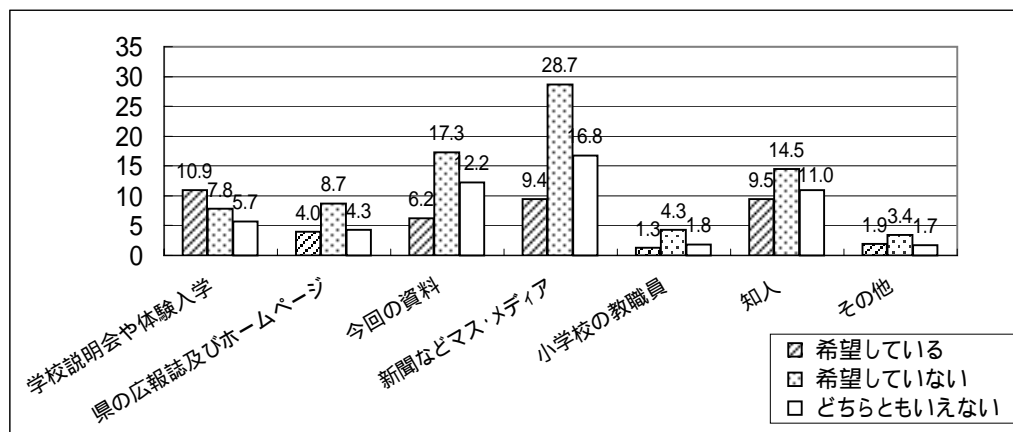


図4 入学志願傾向別の県立中学校情報収集方法

県立中学校への入学を「希望している」者は、「学校説明会や体験入学」(11%)で情報を得た者が最も多く、次いで「知人」(10%)、「新聞などマス・メディア」(9%)となっている。なお、「学校説明会や体験入学」に参加した者の約47%が入学を希望している。

一方、県立中学校への入学を「希望していない」者は、「新聞などマス・メディア」(29%)で情報を得た者の割合が最も多く、次いで「今回の資料」(17%)、「知人」(15%)となっている。

3 県立中学校に対する期待について

あなたやお子さんは、県立中学校にどんなことを期待していますか。当てはまるものすべてに 印 を付けてください。(複数回答可)

表4 県立中学校に対する学年別期待度 (単位：%)

	6年間のゆとりでの個性の伸張	併設高校への無選抜の入学	中高一貫教育校の教育内容に魅力	県立中学校の教育環境の充実	併設高校の進路実績	全く期待していない	その他
5年生	52.2	50.2	30.3	17.6	19.7	10.1	8.4
6年生	54.4	47.2	34.0	20.9	21.6	11.2	7.9
全体	53.3	48.7	32.1	19.2	20.6	10.6	8.2

県立中学校に対する期待度は、学年に関係なく「6年間のゆとりでの個性の伸張」が約53%(小学5年：52%、小学6年：54%)で最も多く、次いで「併設高校への無選抜の入学」が約49%(小学5年：50%、小学6年：47%)、「中高一貫教育校の教育内容に魅力」が約32%(小学5年：30%、小学6年：34%)となっている。

これに対して、「全く期待していない」者は約11%(小学5年：10%、小学6年：11%)であるほか、「その他」約8%のほとんどは、現状に対する不満と今後の取組に対する要望事項であった。

表5 県立中学校を希望している者の各項目別期待度の推移 (単位：%)

	6年間のゆとりでの個性の伸張	併設高校への無選抜の入学	中高一貫教育校の教育内容に魅力	県立中学校の教育環境の充実	併設高校の進路実績	全く期待していない	その他
H15年度	74.2	54.2	51.5	34.5	26.1	0	6.7
H13年度	87.8	49.4	41.6	19.8	19.7	-	10.5

(ただし、平成13年度の「全く期待していない」の項目は、調査項目になかったため(-)で表した。)

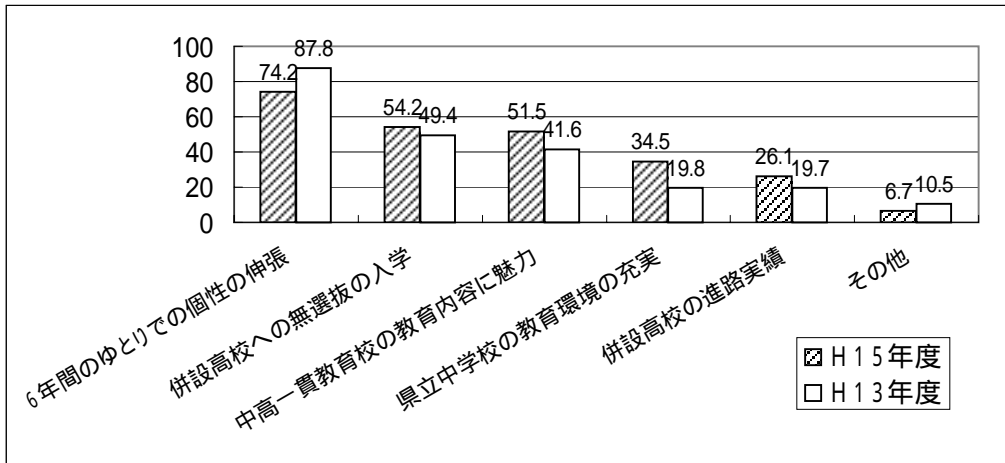


図5 県立中学校を希望している者の各項目別期待度の推移

県立中学校が新設された前年の平成13年度の調査と今回の平成15年度の調査とを比較した場合、県立中学校に対する期待項目の順位には変動がなかった。しかし、期待度については、「6年間のゆとりでの個性の伸張」が88%から74%に下がったが、他の項目すべてで期待度が高くなっている。

表6 入学志願傾向別の県立中学校に対する期待度 (単位：%)

	6年間のゆとりでの個性の伸張	併設高校への無選抜の入学	中高一貫教育校の教育内容に魅力	県立中学校の教育環境の充実	併設高校の進路実績	全く期待していない	その他
希望している	17.1	12.5	11.9	8.0	6.0	0	1.5
希望していない	18.9	17.7	9.6	4.7	7.8	9.4	4.0
どちらともいえない	17.1	18.2	10.4	6.3	6.7	1.2	2.7
全体	53.3	48.7	32.1	19.2	20.6	10.6	8.2

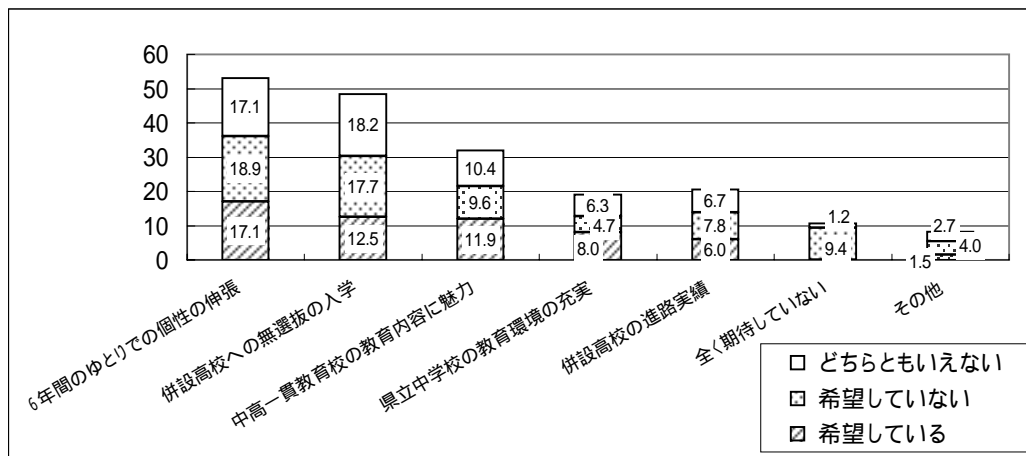


図6 入学志願傾向別の県立中学校に対する期待度の比較

県立中学校に入学を希望するか否かに関係なく、県立中学校に対する期待する項目の順位に大きな変動はなく、「6年間のゆとりでの個性の伸張」と「併設高校への無選抜の入学」の割合が高くなっている。

4 県立中学校の選抜方法について

高知県の県立中学校は、受験競争の低年齢化を生まないように学力検査を実施せず、現在、作文と面接で一定数選考した後、抽選によって、入学者を決定しています。この選抜方法について、次の(A)、(B)の質問に教えてください。

選考方法について

(A) 入学への意欲、目的意識を判断する方法として、作文と面接を行っています。このことについて、あなたやお子さんのお考えに最も近いものに 印を付けてください。

表7 学年別及び入学志願傾向別選考方法の希望割合（単位：％）

	作文と面接のみ	作文・面接とその他の方法	全く別の方法
5年生	40.0	48.4	10.2
6年生	41.4	46.8	10.2
全体	40.7	47.6	10.2
希望している	12.0	9.1	1.7
希望していない	15.7	23.9	5.6
どちらともいえない	12.7	14.5	2.9

（ただし、志願傾向についての無回答0.4％、選考方法についての無回答1.5％）

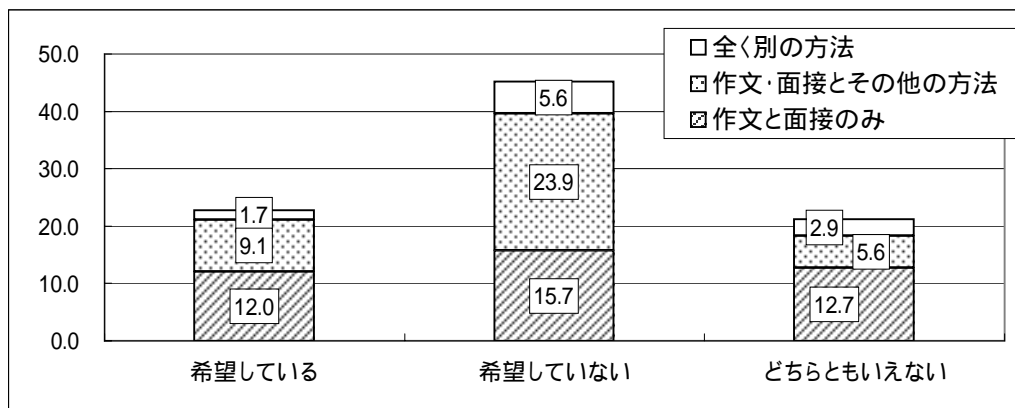


図7 入学志願傾向別選考方法の希望割合

選考方法については、学年別の差はほとんど認められない。従来どおりの「作文と面接のみ」と答えた者は約41％で、「作文・面接とその他の方法」と答えた者は約48％、「全く別の方法」と答えた者が約10％である。このうち、「その他の方法」と「全く別の方法」については、ほとんどの者が「学力検査が必要」と答えている。また、入学を希望している者は、従来どおりの選考方法である「作文と面接のみ」と答えた者と、「作文・面接とその他の方法」及び「全く別の方法」を必要と答えた者とがほぼ同じ割合である。一方、入学を希望していない者は、「作文・面接とその他の方法」及び「全く別の方法」を必要と答えた者が、「作文と面接のみ」と答えた者の約2倍である。

決定方法について

(B) 不合格になったお子さんへの影響を考え、抽選による決定を行っています。このことについて、あなたやお子さんのお考えに最も近いものに 印を付けてください。

表8 学年別及び入学志願傾向別入学決定方法の希望割合 (単位: %)

	抽選したほうがよい	抽選しないほうがよい	どちらともいえない
5 年 生	19.7	39.7	38.8
6 年 生	22.3	44.0	32.7
全 体	21.0	41.8	35.8
希望している	6.4	9.1	7.5
希望していない	8.4	21.3	15.4
どちらともいえない	6.1	11.3	12.6

(ただし、志願傾向についての無回答0.4%、決定方法についての無回答1.4%)

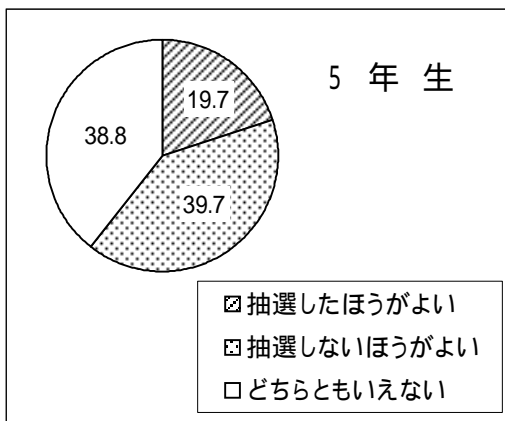


図8 決定方法の希望割合(5年生)

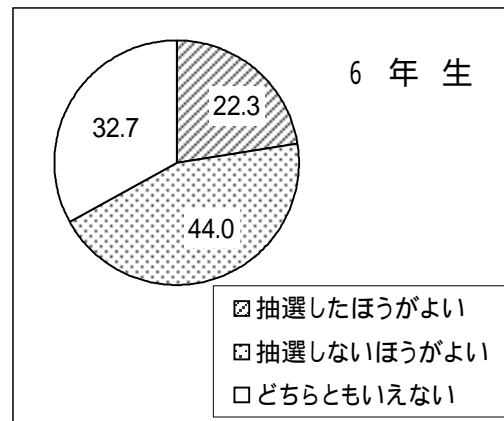


図9 決定方法の希望割合(6年生)

抽選による入学者の決定については、先に述べた選抜方法とは異なり、学年による相違が認められる。特に、「どちらともいえない」と答えた者の割合が5年生が約39%に対し、6年生は約33%と減少し、抽選の実施に対する意見が明確化している。

抽選の実施については、希望する者が約21%(小学5年:20%、小学6年:22%)であるのに対し、希望しない者が約42%(小学5年:40%、小学6年:44%)であり、抽選を希望しない者の割合が、希望する者の割合の約2倍である。

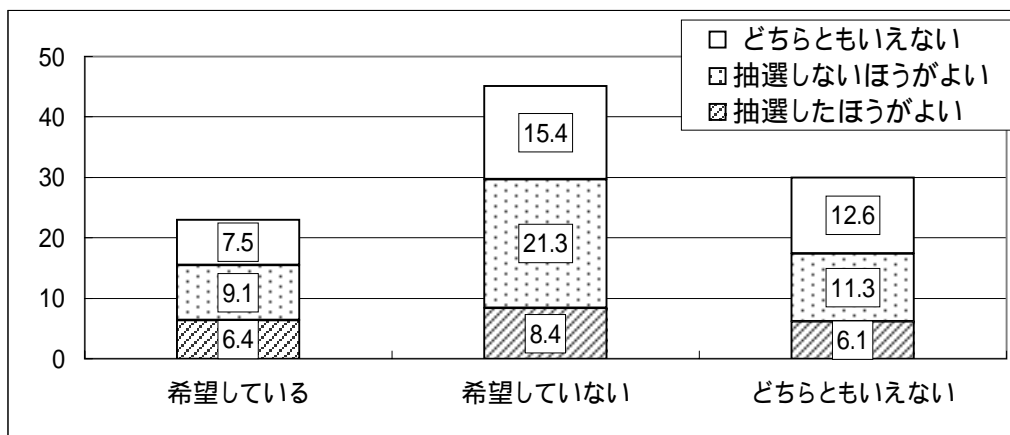


図10 入学志願傾向別決定方法の希望割合の比較

県立中学校への入学の希望の有無に関係なく、「抽選したほうがよい」者よりも「抽選しないほうがよい」者の割合が高い。特に、この傾向は、入学を「希望していない」者に強く、「抽選しないほうがよい」者が「抽選したほうがよい」者の約2.5倍である。抽選の実施が入学を希望しない理由の一つとして考えられる。

表9 選考方法別決定方法の割合

(単位：%)

	抽選したほうがよい	抽選しないほうがよい	どちらともいえない
作文と面接のみ	15.3	10.1	15.1
作文・面接とその他の方法	4.7	24.2	18.4
全く別の方法	1.0	7.1	2.0

(ただし、選考方法についての無回答1.5%、決定方法についての無回答1.4%、両者無回答0.8%)

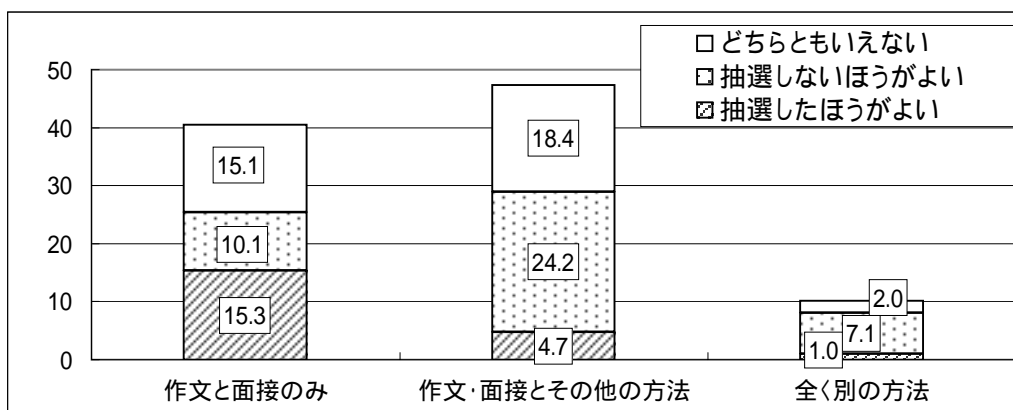


図11 選考方法別決定方法の希望割合の比較

「作文と面接のみ」と答えた者は、「抽選したほうがよい」と答えた者が「抽選しないほうがよい」と答えた者の約1.5倍であるのに対し、「作文・面接とその他の方法」と答えた者は、「抽選しないほうがよい」と答えた者が「抽選したほうがよい」と答えた者の約5倍である。

また、「全く別の方法」と答えた者は、約7割が「抽選しないほうがよい」と答えている。「全く別の方法」と答えた者(約10%)の具体的な記述の内訳としては、「学力検査等をしてほしい」者が約9%、「実技や小学校からの調査書などで判断する特別な枠を設けてほしい」者が約1%、「抽選のみにしてほしい」者が約0.3%であった。